

都立日野台高等学校（1年目）

【校長】
森田和男

【生徒数】
950 名

【学級数】
24 学級



次の取組へ

【課題・改善】

部活動を中心とした、講習会を今後も実施し、地域貢献を図る。今後は広報の仕方を工夫し、日野市の協力も得ながらすすめてゆく。
この活動が広がることによって、より深く競技について主体的に学び、アシスタントコーチができるようになる。
また部活動だけではなく、授業でも ICT 機器を使用しながらやるスポーツへ、見るスポーツ、応援するスポーツへの興味関心を深め、将来の運動、スポーツ活動へつないでゆく。

【実態・課題】

現在、女子バレー部での独自の取り組みになっており、ほかの部活にまで広めていくところまでまだできていない。
剣道部、野球部、サッカー部、陸上部に打診中。
女子バレーボール部の小中高合同練習会は、38 回目を迎えている。
継続して月に一度行うことができている
予算の中で、特に、報償費を使いたいのだが、金額と、都の規定が合わず講師が限定されてしまう。

目標 複数の部活動が地域と活動する

【成果】

活動は地域に根ざし、特に隣の大坂上中学校とは交流ができています。この取り組みに賛同して、剣道部、テニス部、野球部が講習会の実施を検討中。報償費を使用しメンタルトレーニング講習会を実施できた。

【取組】

取り組みの様子などをプリントにまとめて、各部活動に紹介し、取り組む部活動を増やしてゆく

【取組（詳細）】（写真の枚数は自由）

女子バレーボール部の活動として、月に一度、多摩地区を対象として小中高合同練習会を開催している。
きっかけは、高幡不動地区に、バレーボールを主にした小学生のスポーツ団体ができたことで、そこに選手が指導に行ったことから始まった。
小学生も大人も一緒に練習できるメニューで本校の選手は他者を教えるという貴重な体験を得ることができている。
そのことによって、自分の技術の振り返り、より深く理解することができている。
わかっていることと、できること、さらに人に説明して教えるという活動は、選手自ら勉強しなくてはできるようにはならない。
地域の人たちの活動の場が増えること、選手の主体性が伸びることが期待できる。
ひいては生涯を通じてスポーツを続けていくことにつながると考えている。

